

街かどに禅を探し、現代に仏教を見つける

左の写真は、浅草寺「ほうずき市」で撮ったものです。撮影は檀家の千田完治さんです。浅草寺のほうずき市は、7月9日・10日にひらかれます。

ほうずき市は、7月10日に浅草寺へお参りすると、いち日のお参りで、四万六千日分お参りしたのと同じ功德があるという、特別な日にちなんだ縁日です。

今でいえば、ポイントアップ参拝といったらしかられるでしょうか。つまり、参拝者の都合などは無視して期日が指定されるわけですから、積極的な意志がなくてはお参りできません。

「えーっと、その日は仕事があつて……。会社が定年になつたらお参りします」



「浅草寺ほうずき市」撮影 千田完治

なんて人は一生行かない。今がためなら、次の機会も難しいのはだれもが経験する人生の定めです。生活のリズムを仏さまの都合に合わせ、何かを放下しなければ、扉は開きません。

放下とは、手放して投げ捨てるという意味で、中国唐の時代の趙州和尚（七七八〜八九七）に次のような問答があります。修行者が自慢顔でたずねます。

「私は欲望も何もかも捨て去って何ももっていませんが、どうしたらよいでしょうか。」

（一物不将来の時如何）
趙州和尚がこたえます。

放下著

「捨ててしまえ（放下著）」

「著」は命令の意味を表す助辞

で、意味はありません。何一つ持っていないという自慢をまだ後生大事に持っているなら、そんな思いも振りはらつてしまえということです。四萬六千日に行くくらいだったら、すべてを放下する必要はないけれど、少しは自分の都合を捨てなければ巡り会えません。

ところで、数年前から、お盆の塔婆を申し込んだ方には、墨跡を印刷した透明なクリアファイル（A4版サイズが多い）です。世の中に出回っているファイルはA4版サイズが多いのですが、最近では小さめのA5版になりました。

今年もB版5サイズで、「放下著」の字です。筆を染めてくださったのは、元妙心寺派管長の松山寛惠老師でした。祝儀・不祝儀の折りに、金封などを綺麗に持ちこたはごぶのに便利かと思えます。お邪魔でもご受納ください。

編集後記

○五月二五日から二泊三日で、十名ほどの方と「夏目漱石と禅」の旅で熊本と四国松山をめぐるました。○四国松山はご存じ「坊っちゃん」の舞台です。漱石は実際に一年間、旧制松山中学の教諭をしていたのですが、その時の同僚に広中又一という先生がおられたとか。広中先生も漱石と同様に一年で松山中学をやめます。漱石は熊本へ赴任しますが、広中先生はなんと熊谷へ引越してきて、旧制熊谷中学（現熊谷高校）の教師をつとめます。そんなことから、『坊っちゃん』のモデルは旧制熊谷中学の広中先生だという説が流布しています。漱石の孫婿で作家の半藤一利は、この説を否定していますが、熱心な広中モデル説信奉者が現熊高内に記念碑を作るといふ。その発起人の一人と話したら、どうも自らは調べていない。孫引きらしい。他人が調べたものではだめなんですね。自分で見ないと○たとえば、シルクロードで発見された禅の書物があります。今では現物をパソコンの画面で確認できます。でも、ある学者がパリまで行って実物を見ました。禅の書物の裏側には、借金の証文が書いてあったという。行ってみないと、紙の裏側まではわからない。紙が貴重な時代だから、捨てないで、両面使うわけです。借金の証文と一緒にラクダの背にゆられて、禅の教えが西から東へ、東から西へ移動していたなんてウキウキしませんか。○今秋、本山妙心寺の実物を見る旅を計画していましたが、都合によりやめます。「夏目漱石と禅」を追いかける旅はこれで終わりにして、来年から、松尾芭蕉の追っかけを始めようと思っています。（住職・博芳記）

お盆の法要（お施餓鬼） 8月15日

9時30分から 新盆施餓鬼
10時から 法話
10時45分から 先祖施餓鬼 11時15分頃終了

予告 秋彼岸法要 9月23日 午前11時～

彼岸法要後

ぴあのと チェロト

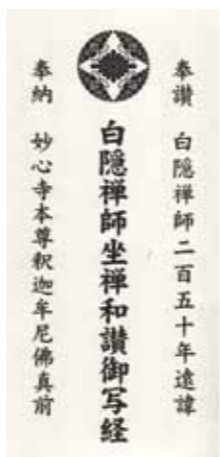
一年前の秋は日本のお琴でしたから、今年はピアノとチェロです。チェロを中国語では「大提琴」って書くんだって。だから、お琴の仲間かな。本堂に重いピアノをどうやっていれるか。お楽しみに！

写経【平成30年下半年開催日】

7月	8日(日) / 22日(土) / 28日(土)
8月	お盆行事のため、一ヶ月休会
9月	9日(日) / 23日(日)
10月	14日(日) / 27日(土) / 28日(日)
11月	11日(日) / 24日(土) / 25日(日)
12月	9日(日) / 22日(土) / 23日(日)

(原則として第二日曜日・第四土曜日・第四日曜日です)

あつまれ! 写経の日程



左記日程の午後1時半から4時半まで本堂で写経ができます。都合の良い時間に来て、ご自分のペースで写経して、お好きな時間にお帰りください。ただし、初めての時はなるべく一時半にご参集ください。もちろん、檀家さん以外でも参加できます。お友だちを誘ってお越しください。